

平成24年千葉市教育委員会会議  
第12回定例会会議録

千葉市教育委員会

平成24年千葉市教育委員会会議第12回定例会会議録

日時 平成24年12月19日(水)

午後2時00分開会

午後2時40分閉会

場所 教 育 委 員 会 室

出席委員 委 員 長 内山 英夫  
委 員 和田 麻理  
委 員 篠原ともえ  
委 員 中野 義澄  
委 員 明石 要一  
教 育 長 志村 修

出席職員 教 育 次 長 小池よね子 指 導 課 長 大久保良孝  
教 育 総 務 部 長 竹川 幸夫 保 健 体 育 課 長 井谷 芳明  
学 校 教 育 部 長 磯野 和美 教 育 セ ン タ ー 所 長 真田 清貴  
生 涯 学 習 部 長 原 誠司 養 護 教 育 セ ン タ ー 所 長 沼倉 徹  
総 務 課 長 初芝 勤 生 涯 学 習 振 興 課 長 杉戸 利一  
企 画 課 長 高須 右一 中 央 図 書 館 長 橘 高俊  
学 校 財 務 課 長 山田 輝夫 生 涯 学 習 振 興 課 文 化 財 保 護 室 長 横田 正美  
学 校 施 設 課 長 補 佐 市川 康次 総 務 課 総 括 主 幹 久我 千晶  
学 事 課 長 佐藤 宏喜 学 事 課 調 整 主 幹 行木 浩  
教 職 員 課 長 宇田 英弘 生 涯 学 習 振 興 課 主 幹 塚越 達雄

書 記 総 務 課 長 補 佐 南 久志 総 務 課 主 査 補 諏訪 瑞穂  
総 務 課 委 員 会 係 長 土肥 慶典 総 務 課 主 任 主 事 藤井 拓也  
総 務 課 総 務 係 長 渡邊 実

- 1 開会  
内山委員長より開会を宣言
- 2 会議の成立  
全委員の出席により会議成立
- 3 会議録署名人の指名  
内山委員長より和田委員を指名
- 4 会期の決定  
平成24年12月19日（1日間）ということで全委員異議なく決定
- 5 議事日程の決定  
議事日程を全委員異議なく決定
- 6 会議録の承認  
平成24年第9回定例会及び第3回臨時会会議録を全委員異議なく承認

## 7 議事の概要

### (1) 報告事項

報告事項(1) 平成24年第4回千葉市議会定例会について

総務課長より報告があった。

報告事項(2) 平成25年度千葉市立稲毛高等学校附属中学校入学者選抜の志願者数について

学事課長より報告があった。

報告事項(3) 平成24年度研究報告会・研究大会について

指導課長より報告があった。

報告事項(4) 平成25年度千葉市立高等特別支援学校の入学志願状況について

指導課長より報告があった。

### (2) 発言の要旨

報告事項(1) 平成24年第4回千葉市議会定例会について

内山委員長 総務課長、報告をお願いします。

総務課長 「平成24年第4回千葉市議会定例会について」、概要等を報告します。

第4回千葉市議会定例会ですが、11月27日から12月14日までの会期で、議案質疑、教育未来委員会、代表質問、一般質問等が行われました。

次に、教育委員会に関わる提出議案の審議状況ですが、先の教育委員会会議第4回臨時会において審議しました、「平成24年

度千葉市一般会計補正予算」「千葉市立小学校設置条例」「千葉市立中学校設置条例」の一部改正については、教育未来委員会に付託され、同委員会における審査を経て、12月14日の本会議におきまして可決されております。

次に、11月30日に行われた議案質疑ですが、3議員が質疑を実施し、うち1議員が、教育委員会に対して、「補正予算」「小学校設置条例」「中学校設置条例」についての質疑を実施しました。

続いて、12月5日から7日まで行われた代表質問ですが、8会派が教育委員会に対して質問を実施しました。主な質問の内容は資料のとおりです。

最後に、12月7日から14日に行われた一般質問ですが、24議員が質問を実施し、うち9議員から教育委員会に関する質問がありました。主な質問の内容は資料のとおりです。

平成24年第4回千葉市議会定例会に係る報告については以上ですが、何か不明な点、説明を要する点などがありましたら、事務局までお問い合わせください。

明石委員 代表質問の主な項目で、校長の公募制という質問がありましたが、教育委員会はどのように答えたのでしょうか。

教職員課長 校長公募制の導入について、現在はまだ考えていませんが、他政令市の課題等も踏まえながら、引き続き検討していきたいと答えました。

明石委員 いつごろ結論を出すのでしょうか。

教職員課長 いつ結論を出すといったようなスケジュールは、現在はまだ持っておりません。

明石委員 次に、一般質問の中で、領土に関する教育という質問がありましたが、どのような内容の質問で、教育委員会はどのように答えたのでしょうか。

指導課長 ある会派から、尖閣問題と竹島等について、どのように教科書で扱われているかという質問がありました。これに対し、学習指導要領に基づいて授業で取り扱っていると答えました。

明石委員 分かりました。そこでお願いしたいのは、小学校・中学校で、領土に関する授業を、実際どの程度やっているか教えてください。

教員研修では、ほとんどの先生方が、日本の領土について理解ができていないようなので、その辺も含めて、実態を報告してもらえればと思います。

内山委員長 この件について、事務局で検討いただき、後日回答をお願いします。

指導課長 分かりました。

報告事項(2) 平成25年度千葉市立稲毛高等学校附属中学校入学者選抜の志願者数について

内山委員長 学事課長、報告をお願いします。

学事課長 「平成25年度千葉市立稲毛高等学校附属中学校入学者選抜の志願者数について」、報告します。

平成25年度千葉市立稲毛高等学校附属中学校入学者選抜の出願受付を、12月13日(木)、14日(金)に行い、志願者数は、男子374人、女子454人、合計828人となりました。

募集定員は、男女とも40人ずつ、合計80人であり、志願倍率は、男子9.4倍、女子11.4倍、全体で10.4倍です。

参考までに、平成24年度の入学者選抜の志願倍率は、男子9.3倍、女子11.6倍、全体で10.4倍でした。

今後の日程、適性検査等については、資料のとおりです。

明石委員 男子より女子の志願者の方が多いようですが、その理由が分かれば教えてください。そして、19年度は20倍だった志願倍率が、現在では半分の10倍程度となっていますが、これは、20年度に県立千葉中学校が開校したことと関係があるのでしょうか。また、これについて、どのような対策をとってきたのでしょうか。

学事課長 まず、女子の志願者数の方が多いことについては、国際教育に力を入れている稲毛高等学校は、以前から志願者数や在籍者数も女子の方が多いことから、附属中学校についてもその影響が表れているものと推測します。

また、平成20年度以降の志願倍率の低下については、委員のご指摘のとおり、県立千葉中学校の設立による影響は否定できないであろうと考えています。

これについては、「真の国際人の育成」という目標を重点的に示し、県立千葉中学校との差別化を図ることで対応していきたいと考えています。

明石委員 分かりました。次に、今年度から英文による適性検査と英語の発問による面接の受験が可能になったようですが、これはやはり学校の特色によるものなのでしょうか。

志村教育長 今年度から英語に対応したのは、幕張にあるインターナシヨ

ナルスクールのお子さんが受験する場合、日本語のテストではハンデがあるのではないかという理由によるものです。

そして、今回の実施結果をみて、今後、英文による適性検査がどの程度有効なのかを検証し、次年度以降に生かしていきたいと考えています。

明石委員 そうであれば、最初からそのように明示した方がいいのではないのでしょうか。また、最初からインターナショナルスクール生の枠を設けるなどの方法もあるのではないかと思います。

志村教育長 稲毛高校附属中の場合、千葉市以外の子どもは受験できないので、英文の適性検査が必要なのは、現在のところ幕張のインターナショナルスクールしか考えられないことから、そちらに対しては、こういった説明をしています。

学事課長 英語による適性検査や面接の実施については、これまで保護者説明会や学校説明会等で、あくまで、日本語よりも英語の方が受験をしやすいという方たちのための措置であるということ、繰り返し説明してきました。またその際、このことが、英語能力をみるという観点ではないことも、繰り返し説明してきましたので、委員が心配するようなことはないものと考えています。

和田委員 説明に関連してですが、現時点で英語の能力があることが決して大事ではなく、学校に入ってからその能力を育てることが大事であるということ、これからもずっと強調し続けていただきたいと思ひますし、その可能性を持っているお子さんを入学させたいという姿勢であることを前面に押し出してほしいと思ひます。

そこが勘違いされてしまうと、今、英語がしゃべれないといけないと思われてしまい、だんだん道が外れていってしまうと思ひます。そのあたりはご留意をお願いしたいと思ひます。

志村教育長 分かりました。

内山委員長 初めての試みなので、終了後にまた検討していただければと思ひます。

和田委員 話は変わりますが、先ほど明石委員からご指摘があった、1年目は倍率が高くて2年目からは落ちるということですが、県立千葉中も同様の傾向がみられるので、もしかすると一般的なこともかもしれません。

ここ何年かは10倍前後で推移していますが、この10倍という倍率を適正な倍率と考えていいのか、それとも今後もっと違う

方向にしていく方がいいのか、考え方はいろいろあると思います。

また、倍率が高ければいいということでもないと思いますし、10人に1人しか受からないとなると、受験生にとってはとても厳しい試験なのは間違いないので、今後どういう方向に進んでいけばいいのか難しい部分だと思います。

志村教育長 今年度は内進生が初めての大学受験なので、その結果なども影響してくると思います。ただ、今は、公立の中高一貫校は全国的に人気が高い状況なので、どうしてもこのぐらいの倍率になってしまうと思います。

また、県立は県内から受験生が集まるため、どうしても市立よりは倍率が高くなるのはやむを得ないと思われます。ただ、大事なことは、倍率よりも、やはり子どもたちにどのような教育をしていくかということだと思います。

今のところ稲毛高校附属中に関しては、学習だけではなく、いろいろな研究や、芸術的な分野、スポーツの分野などで頑張っているのです、そういった面では、極めて望ましい教育が行われているのではないかと考えますが、今後また、いろいろと検討していきたいと思います。

内山委員長 先日、校長とお会いする機会がありましたが、そこで、もう少し特色を出していい学校にしたいと言っていました。

今後ともいい生徒たちが集まるよう、我々も頑張っていきたいと思います。

### 報告事項(3) 平成24年度研究報告会・研究大会について

内山委員長 指導課長、報告をお願いします。

指導課長 「平成24年度研究報告会・研究大会について」、報告します。

指導課及び保健体育課では、千葉市の教育課題の解明に向け、19校を研究校として指定しています。そのうち、既に実施された4校と指定校以外の3つの研究報告会及び研究大会について、報告します。

学習指導要領の円滑な実施に向けて、キャリア教育や言語活動の充実等の今日的な教育課題の解明や学習指導の充実などをテーマとして、2年間の研究指定校を委嘱しているところですが、いずれの学校においても、「確かな学力」の育成を目指した「わかる授業」の推進や、「豊かな心」「健康な体」を育む教育実践の成果が報告されました。

今年度も、研究報告会への参加を初任者研修の一環として、とともに、各学校で独自に行われている若年層教員を対象とした「フレッシュ研修」の一環として、報告会への参加を位置づける学校が増えてきています。

すべての報告会を通して、若年層教員の参加が多く、教員としての資質向上を目指して、本人及び管理職が、良き研修の機会と捕えていることが分かるとともに、授業をした教員の成長も実感することができました。

今後、これらの研究成果を市内の学校で共有し、「わかる授業」の推進を通して、子どもたちの「確かな学力」の定着を図っていきます。

なお、それぞれの研究報告会の内容については、概要をご覧くださいただければと思います。

また、内山委員長を始め教育委員の皆様には、4校の研究指定会の報告会に複数参観していただき、本当にありがとうございました。

和田委員 11月28日に行われたこてはし台小学校の発表会に伺いましたが、分科会形式による参加者主体の協議会が実施され、ほとんど全ての参加者が、自分の意見や感想などを述べ合いました。

先生方が生徒・児童に戻っているような感じがして、非常に勉強になったのではないかと思いますので、このような形式を、ぜひ今後も推進していただきたいと思います。

指導課長 ありがとうございます。

篠原委員 和田委員と同様、この発表会に参加しましたが、やはり分科会による参加型形式というのは、とても素晴らしいと思いました。

こてはし台小学校の先生方全員が発表をしていましたが、とてもまとまりが良く、皆が同じ目的をもって取り組むことにより、とてもいい雰囲気になるということを本当に実感しましたし、皆さんの成果が発揮されたのではないかと思います。

ありがとうございました。

内山委員長 私も参加しましたが、子どもたちも一生懸命取り組んでいて、とても元気がいいと思いました。

また、先生方も一生懸命研究をして、いい授業にしようと頑張っているのが分かりました。

力を合わせて知恵を絞ることにより、良い結果も出てくるとともに、その頑張りが自分たちのいい栄養になっていくのだと思い

した。

とてもいい試みだったと思うので、これからも続けていってください。よろしくお願いします。

報告事項(4) 平成25年度千葉市立高等特別支援学校の入学志願状況について

内山委員長 指導課長、報告をお願いします。

指導課長 「平成25年度千葉市立高等特別支援学校の入学志願状況について」、報告します。

12月3日(月)から7日(金)まで、願書の受け付けを行いました。募集定員32名に対し、志願者数51名、倍率1.59倍となりました。ただし、本日まで志願変更が可能なため、最終倍率は変動する可能性があります。

今後の日程ですが、入学選考検査は、県立高等特別支援学校と同一日程で実施します。具体的には、平成25年1月16日(水)及び17日(木)に選考検査を実施し、1月23日(水)に選考結果を発表します。また、発表時に入学許可候補者数が定員に満たない場合は、第2次募集を行います。

次に、入学者選考検査は、作業能力検査、学力検査、運動能力検査及び面接で、志願者の適性、意欲等を総合的に判定して行います。

和田委員 特別支援学校という点から考えて、男女別の定員数は設定できないと思います。また、実際の志願者数でも男女の人数の差がかなり開いていますが、結果的に合格者の男女差が表れることもあり得るといえることでしょうか。

指導課長 はい。考えられます。

篠原委員 志願者倍率が1.59倍ということですが、受からなかった子どもたちの受け皿というのはどのようになっているのでしょうか。

指導課長 市立養護学校の高等部に入学することが可能です。

## 8 その他

(1) 平成24年度ジョイントフェスタの視察について、篠原委員より報告があった。

篠原委員 先週14日、ジョイントフェスタに参加しました。

昨年度も参加しましたが、たくさんの出席者がいる中で、自分のことをきちんと発表する、表現することができている姿を見て、本当に嬉しく思いました。

その中で、イオンでの職場体験のことについて発表をしてくれた子どもたちがいましたが、やはりみんなの前で自分の体験したことを発表することができたというのは、とても自信につながるのではないかと思います。

また、通級している学校の校長先生が皆さん見学に来ており、自分の学校の子どもたちに声をかけている姿も、とても素晴らしかったです。

やはりこういった取り組みによって、子どもたちが自信をつけていき、次のステップに進めるのではないかと思います。ありがとうございました。

(2) 第14回火星ローバーコンテスト in 千葉の視察について、篠原委員より報告があった。

篠原委員 先日、火星ローバーコンテストの視察に伺いましたが、14回も続いているということを知りました。

回数を重ねているだけあって、かなりグレードが上がっているのか、次々と素晴らしい作品が発表されましたが、その中の一つに「リベンジ」という名前の作品がありました。

恐らく、以前にも出品したことがあるのだと思いますが、小さい頃からこういったことに取り組み、また、他の作品に憧れたり、参考にしたりということが長く続いていくのは、本当に素晴らしいと思いました。

今後も、こういった楽しい企画を続けていってほしいと思います。ありがとうございました。

(3) 平成25年千葉市成人を祝う会について、明石委員、内山委員長、和田委員より意見があった。

明石委員 千葉市成人を祝う会について、所管はこども未来局ということですが、教育委員会も主催者になっているので、こども未来局とうまく連携していかなければいけないと思いますが、その辺りがどのようにになっているのか、今ひとつ見えてきません。

内山委員長 成人を祝う会のほかに、スポーツや文化なども含めた市長部局に移った業務については、まだ十分に練られていないところがあるように感じますので、今後とも、お互い連携をとりながら取り組んでいかなければいけないことだと思います。

明石委員 青少年健全育成の一つとして成人を祝う会があると思いますが、市長部局だけではなく、教育委員会も含めた市全体が、青少年健全育成をどのように進めていくかということを考えていく

必要があるのではないかと思います。

例えば、10歳で2分の1成人式があつて、その5年後、15歳で生徒会交流会、またその5年後に、20歳で成人を祝う会があるといったストーリーを持たせることができれば、千葉市独自の成人式を行うこともできるのではないかと思いますので、ぜひ、こども未来局とうまく連携して取り組んでいてもらいたいと思います。

和田委員 学校教育の部分を教育委員会が、学校教育以外の家庭教育や地域教育の部分をこども未来局が所管するといった役割分担になっているのではないかと思います。あくまで対象は同じ子どもたちなので、しっかり連携をとっていかないといけないことがたくさんあると思いますので、よろしくをお願いします。

(4) 次回第1回定例会は、平成25年1月16日(水)午後2時より開催することと決定した。

## 9 閉会

内山委員長より閉会を宣言